

平成27年度

第60回 長野県中学校連合教科研究会

# 社会科

## 目次

I	研究テーマ	-----	1
II	研究の趣旨	-----	1
III	参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名	-----	1
IV	研究問題と協議内容		
	第1分科会	-----	4
	第2分科会	-----	6
	第3分科会	-----	8
V	本年度研究会の反省と来年度への方向	-----	10
VI	あとがき	-----	11

(社会 1)

## I 研究テーマ

「社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現していく社会科の指導はどうあったらよいか」

## II 研究の趣旨

生徒一人一人が主体的に課題を探究し、社会的事象に対する見方や考え方を深め、表現していく授業が実践できたかを、具体的な素材・教材から生徒の変容をとらえ、共有の財産としていきたい。また、具体的にどのような学習問題によって授業を実践していくことが、基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらを活用していく力、課題を探究していく力を育てることができるのかを究明していきたい。

## III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

### 第1分科会

指導者	柳澤 正寿 先生 (北信教育事務所指導主事)	
司会者	佐々木 洋一 先生 (松本市立松島中学校)	
記録者	中山 敦 先生 (駒ヶ根市立赤穂中学校)	
世話係	簾田 典彦 先生 (附属松本中学校)	
学校名	氏名	参加校の研究の要旨
東部中	舟越 暁	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会的事象や友と自分を関わらせ、豊かな見方や考え方を養う社会科学習</li><li>・豊かな見方や考え方を養う友との関わらせ方と豊かな言語活動を育む学習形態のあり方</li></ul>
岡谷北部中	月岡 優介	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料に基づいて、根拠を持って自分の考えを述べる社会科学習のあり方</li><li>・資料に基づいて根拠を持って考えを述べることのできる授業のあり方とグループでのまとめや発表の形式について</li></ul>
箕輪中	宮尾 涼子	<ul style="list-style-type: none"><li>・裁判と人権の単元で、新聞記事を活用し、実際の判例や報道内容について公正かつ批判的に分析・考察していくための授業の構想</li></ul>
南箕輪中	宮田真知子	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会的事象に興味・関心を寄せて意欲的に追究し、自分の考えに根拠を持って発表できる生徒</li><li>・「自分ならどう考えるか」という問いに切実感をもって参加する場面設定のあり方</li></ul>
赤穂中	中山 敦	<ul style="list-style-type: none"><li>・自ら課題意識を持ち、社会的事象を追究していこうとする力を育むための学習指導</li><li>・自分の生き方に寄せた歴史授業のあり方</li></ul>
常盤中	山崎福太郎	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元をつらぬく学習問題をふまえた1時間の主眼設定と生徒の意識を捉えるための工夫</li><li>・毎時間の授業作成を主眼設定の工夫(導入からまとめまでのつながりや追究資料の選択)</li></ul>
	矢澤 拓真	<ul style="list-style-type: none"><li>・思考・判断・表現力をつける指導のあり方</li><li>・思考・判断・表現力をつけるための他校での実践を学びたい</li></ul>
山ノ内中	五十嵐 翔	<ul style="list-style-type: none"><li>・もっと知りたい、共に学ぼうとする社会科学習のあり方</li><li>・生徒が読み取れ、話し合える資料づくりと教材研究のあり方</li></ul>

## (社会 2)

裾花中	中村 淳志	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に資料を読み取り、多面的・多角的に見方や考え方を広げる社会科学習のあり方</li> <li>世界の諸地域でそれぞれの州の特色を理解する上での単元構成のあり方(主題の設定について)</li> </ul>
附属長野中	内川 啓	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象を批判的に考察する力を高める指導の在り方</li> <li>各地域の地域的特色を構成する内容から共通点を見だし、地域の将来像や課題の解決策の相互の関連をとらえながら、批判的に考察するための手だての在り方</li> </ul>
附属松本中	簾田 典彦 楠 武明	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の暮らしと結び付けながら社会的事象の価値を見いだしていく社会科の学習</li> <li>「世界の諸地域」の前単元として、生徒自身の暮らしとのつながりを意識したり、実感できたりするようにしていく単元構成はどうあったらよいか。</li> <li>グローバル化が進展する国際社会について、公民的資質を養う観点に立ち、どのような社会的事象をこれから重点的に学習していくべきか</li> </ul>

## 第2分科会

指導者	喜多 篤史 先生 (東信教育事務所指導主事)	
司会者	有賀 武 先生 (松本市立丸ノ内中学校)	
記録者	下平 健吾 先生 (塩尻市立広陵中学校)	
世話係	荻原 拓 先生 (附属松本中学校)	
学校名	氏名	研究の要旨
中込中	井出 岳	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな学びを求める授業 ～みんなで考え合って、思考を深めていく楽しさを目指して～</li> <li>歴史学習で、単元を通して追究できる学習問題や課題を設定し追究しようとした。生徒にとってどんな学びがあるのか。</li> </ul>
第一中	西澤 敏光	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな見方考え方をもち、問題解決力を身につけていく社会科の学習はどうあったらよいか</li> <li>見方考え方を広げるため、また、表現力を育成するための手立てとして新聞の題材が適切であったか。</li> </ul>
高森中	三井 裕樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を活用して、多面的・多角的な視点で社会事象を読み取ることができる生徒</li> <li>資料をどのように提示することが効果的であるか</li> </ul>
阿南第二中	中村 広登	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連的に思考する社会科学習</li> <li>生徒の思考を促したり、生徒が内発的に問いを持ち、追究し続けるための教師の手立てや授業・単元構成のあり方</li> </ul>
上松中	室岡 裕幸	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの見方考え方を深め、表現していく社会科学習はどうあったらよいか</li> <li>生徒の興味関心を引き出す ICT 機器の使用の手立てとあり方、学習内容を生徒に深く定着させる振り返りの手立て、表現力を育成するグループ学習のあり方</li> </ul>
広陵中	下平 健吾	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他地域との結びつき」を中核に中国・四国地方を考察する</li> <li>中国・四国地方を「他地域との結びつき」を中核に考察した場合、どのような構想ができるか。</li> </ul>

## (社会3)

川中島中	酒井 文子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸資料を主体的に活用し、社会事象を多面的・多角的に考察する指導はどうあったらよいか</li> <li>・日本とスウェーデン両国の男性の育児支援の実際を知ったことや、男女それぞれの立場で育児休暇制度を利用するか・利用してほしいか考えたりしたことが、社会的な事象を多面的・多角的に考察する学習につながったか</li> </ul>
丸ノ内中	有賀 武	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な事象の持つ意味を追究する社会科学習はどうあったらよいか</li> <li>・資料から読み取った情報を自分のまとめ(考え・思い)へ反映させるには、どのような工夫・手立てが考えられるか</li> </ul>
信明中	筒井 龍彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士が支え合いながら、基礎基本が「わかる・できる・活かせる」授業の創造</li> <li>・定期テストや、高校入試での得点を上昇させるためにどのような手立てがあるのか</li> </ul>
筑摩野中	唐澤 悠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合う授業の創造 自分の考えを持っている生徒が、友の意見や考えを知ることによって自分の考えばかりでなく、新たな見方や考え方を知ることができる</li> <li>・世界の諸地域において、各校がどのような単元展開で行っているか。</li> </ul>
附属長野中	麦島 隆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な事象を批判的に考察する力を高める指導のあり方</li> <li>・各地域の地域的特色を構成する内容から見方を見だし、地域の将来像や課題の解決策の相互の関連をとらえながら、批判的に考察するための手立てのあり方</li> </ul>
附属松本中	荻原 拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の暮らしと結び付けながら社会的な事象の価値を見いだしていく社会科の学習</li> <li>・「世界の諸地域」の前単元として、生徒自身の暮らしとのつながりを意識したり、実感したりできるようにしていくための単元構想はどうあったらよいか</li> </ul>

## 第3分科会

指導者	牧野 孝裕 先生 (南信教育事務所指導主事)	
司会者	武居 悠輔 先生 (茅野市立永明中学校)	
記録者	中村 大樹 先生 (安曇野市立穂高東中学校)	
世話係	平塚 広司 先生 (附属長野中学校)	
学校名	氏名	研究の要旨
浅間中	下島 洋平 林 卓史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が広い視野から社会的な事象を追究し、見方・考え方を深める指導のあり方。</li> <li>・多面的・多角的な考察力をつけるためのグループ学習の仕方について。</li> </ul>
塩田中	小宮山敬太	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に地理的な見方や考え方を育成する社会科指導はどうあったらよいか</li> <li>・グループ学習と話し合いの仕方について。</li> </ul>
第六中	菅谷 宗徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が論拠を明らかにしながら話し合い活動を進める社会科学習はどうあったらよいか。</li> <li>・生徒の話し合いを活性化させる発問のあり方や、理解と思考を深める学習カード</li> </ul>

(社会 4)

茅野北部中	竹花 泰	・生徒の学ぶ意欲が高まる社会科指導のあり方 ・地方自治の学習で社会的事象を多面的・多角的にとらえるための 単元展開や資料。
宮田中	白澤 英敏	・生徒一人ひとりが、楽しく深く追究する指導のあり方 ・単元構想時における、教材の本質の見つけ方、とらえ方。
駒ヶ根東中	西村 賢太	・生徒が自ら課題を持って、主体的に追究していく社会科学習のあり方 ・主体的な追究を促す課題設定について。
塩尻西部中	高橋 朋美	・構造図を活用した、学習展開の仕方。 ・構造図による授業展開・単元を貫く問いの内容
女鳥羽中	塚原 健太	・友との関わりから自分の考えを深める授業 ・普段の授業で行っている、生徒同士の関わりによって考えを深めていく具体例。
附属長野中	平塚 広司	・社会的事象を批判的に考察する力を高める指導のあり方。 ・地域の将来像や課題の解決策の相互の関連をとらえながら批判的に考察するための手だて。
附属松本中	中野 直輝	・自分の暮らしと結びつけながら社会的事象の価値を見出していく社会科の学習 ・「世界各地の人々の生活と環境」の単元構想と、グローバル化を見据えた生徒の育成

#### IV 協議内容

##### 【第1分科会】

#### 討議1 自分の生き方に寄せ、自分事として考える指導のあり方

##### 1 レポート発表

- (1) 小学校の学習内容とのつながりから追究意欲を高め、グループ追究を通して聖徳太子の目指した国づくりへの理解を深めようとした実践。(山ノ内中)
- (2) 藤原氏の権力を持つに至る歴史的背景を追究する場面で、諸事象の順位付けを根拠として考えを説明する力を育もうとした実践。(岡谷北部中)
- (3) 欧米の接近により鎖国体制が揺れる場面で、当時の大名や幕府の考えに触れながら、幕府が開国を決断した真意について理解を深めようとした実践。(赤穂中)
- (4) 近代日本の単元の終末場面で大観した内容をフリップボードにまとめ、グループ内発表を通して、時代を大観し表現する力を育もうとした実践。(常盤中)

##### 2 協議

- (1) 小学校との学習内容の違いを意識し、有効に活用しながら律令国家として形作られていったことを大きくとらえられるように単元構成を考えていくことをねらいとしたい。
- (2) 順位付けという手立ては子どもにとって考えやすいが、歴史をとらえる学習では検討の余地がある。一つ一つの資料にこだわりを持ち、つながりを感じられるような手立てを工夫したい。
- (3) 近世から近代への移行期の学習であるが、単元の導入時に新しい時代を切り開いたのは誰なのかという問いを立てて入っていくと、この時代への理解が深まるのではないか。
- (4) フリップボードに個々の思考・判断・表現がよく表れている。まとめた内容や授業で扱った資料を用いながら、ついた力を評価できるようなテストのあり方も考えていけるとよい。

(社会 5)

3 指導者の先生のご指導

単元の構造図に学習事項を書き出すことで指導内容が明確となり、時間も縮減されてくる。単元を通して問題解決型学習となっていくことが言語活動につながり、思考・判断・表現力を育む近道となる。

**討議2 友との関わり合いを通して、見方や考え方を深めていく指導のあり方**

1 レポート発表

- (1) 身近な具体物から個々に追究テーマを決め出し、グループでの発表を通して、世界各地の生活の多様性について見方や考え方を深めた実践。(附属松本中)
- (2) パーム油の生産が急速に増加していることに着目し、資料の読み取りをもとにグループ内で話し合わせ、東南アジアの経済成長をとらえさせようとした実践。(裾花中)
- (3) 世界をリードするアメリカの工業力に着目し、工業発展の様子を資料から読み解きながら理解を深めようとした実践。(常盤中)
- (4) 東京都の近隣3県の人口が急増していることに着目し、資料の読み取りをもとに、さまざまな地域と結びつく関東地方の地域的特色をとらえさせようとした実践。(東御東部中)
- (5) 世界の様々な地域の調査の単元で、調査結果をワークシートにまとめ、地域の将来像や課題の解決策について考察し説明する力を育もうとした実践。(附属長野中)

2 協議

- (1) 身近な具体物を切り口に世界の多様性をとらえさせようとの構想が良い。単元の構想の段階では、雨温図や気候区分などを事前に学習した上で思考判断を問うようにしたい。
- (2) アジアの主題例は、民族・文化の多様性、人口の急増と経済成長などがあるが、多様性をとらえるために他の諸地域の学習を先に行い、また、経済成長をとらえるには資料の精選が必要。
- (3) 子どもたちの予想を練り上げて学習課題につなげていきたい。環境という視点が出ているので、製品と環境の関係をとらえられるような板書の工夫も考えていけるとよい。
- (4) 事前に基本的な読み取り方を指導しておくことが資料を読む力を育む。多くの資料を提示する場合はねらいをもって提示し、学習課題の設定、話し合い活動へとつなげていけるとよい。
- (5) 世界の様々な地域の調査の単元は、課題を見つけ、追究の方法を学ぶ単元である。国際会議の舞台における子どもたちの立場を明確にし、学習問題を絞って追究させていきたい。

3 指導者の先生のご指導

知識を身につけた上での思考・判断といった学習の流れを大切にしたい。言語活動は、グループ内で意見交換だけでなく自分の考えを書き表すことも活動の一つである。単元の終末では、レポート形式でまとめるなど、次の単元にも生きてくる力の育成を図っていきたい。

**討議3 根拠をもって自分の意見を発表するための指導のあり方**

1 レポート発表

- (1) 生産と労働の単元で紙芝居やロールプレイなど導入時の支援により、切実感をもって自分の考えを発表する力を育もうとした実践。(南箕輪中)
- (2) 裁判と人権の単元で、新聞記事を活用し、実際の判例や報道内容について公正かつ批判的に分析・考察していくための授業の構想。(箕輪中)

2 協議

- (1) 労働者の立場だけでなく経営者の立場にも立たせて考えさせたい。そこを糸口に、よりよい解決方法は何だろうと深めていけるとよい。
- (2) 刑事裁判を扱うには、基本的な知識を身につけておくこと、個人ではなく罪が裁かれるとい

(社会 6)

うこと、公平・公正に判断できるような資料を与えることなどを確認して授業を構想したい。

### 3 指導者の先生のご指導

子どもが生き生きと語りやすい関係を築くために、全ての授業でという訳にはいかないが単元の中にグループ活動を入れていくとよい。また他教科とも連携を図ってけるとよい。

## 討議4 「日本の諸地域」単元展開について

### 1 協議

地方の中核となる事柄や地域的特色については教科会で確認すること。単元の問いに対し、「○○地方は～という地域である」というゴールが一致しているようにすることも大切である。

### 2 指導者の先生のご指導

学習指導要領の内容を構造化することで日本の諸地域で扱う内容が見えてくる。教材研究を通して、地域ごとに「考えて身につける知識」(社会的事象)、「調べて身につける知識」、(社会的事実)、「用語など」(具体的な事実)と構造的に整理していくことで、単元を貫く問いやその問いを生み出すために必要な資料が見えてくる。

(文責者 赤穂中学校 中山 敦)

## 【第2分科会】

### 討議1 地域素材や身近にある資料を取り入れて、生徒が思考を深めていく指導のあり方

#### 1 レポート発表

- (1) 明治政府が列強に追いつくためにどのような政策を行ったのか考える際、教育によって知識や教養を深めようとしていたことを、旧中込学校と当時の人々の姿から考察した実践。(中込中)
- (2) 戦争についてのスクラップ新聞をつくる場面で、感じたことや考えたことをグループで共有し見出しを考える活動を通して、生徒の読解力や表現力を高めていった実践。(上田第一中)
- (3) 中部地方の伝統産業について考える際、松本市の新聞記事を活用し、伝統産業に携わる人々の話を聞く活動を通して、さまざまな立場から考察を深めようとした実践。(丸ノ内中)
- (4) GHQによる戦後改革を考える際、身近な地域との関連性に目を向け、先人たちの地域づくりにおける工夫や努力を知ることで、歴史的な意義を捉えることを目指した実践。(阿南第二中)

#### 2 協議

- (1) 時代の転換点を、前の時代の特色をとらえながら考察するのは生徒にとって難しいことであるが、この力がつくると応用力につながる。各時代の特色を言葉でまとめる活動を入れていきたい。
- (2) 「スクラップ新聞」づくりは、読み取り、表現、活用などのスキルアップにつながるが、社会科として、どんな力をつけさせたいのか明確にする必要がある。
- (3) 映像を見せる際は、内容ももちろんだが出しどころが大事である。また、人々の思いに目を向けることに留まらず、社会参画への一つの手段として映像を活用したい。
- (4) 当時の人々の思いに触れた生徒たちが、そこから歴史的な意義を追究する手立てを模索する必要があるのではないか。身近な地域の教材がもつ価値をさらに見極めたい。

#### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 地域素材を扱うことで生徒の視野が広がる。字面だけではわからないことを知り、全体の特色を、身近な地域の歴史から再確認するよい手段である。
- (2) 新聞を活用することでさまざまな技能を磨くことができる。社会をとらえ、社会形成に参画

## (社会 7)

する態度を養うきっかけにもなる。一方、社会科としてつける力は明確にする必要がある。

### 討議2 生徒に学習内容を定着させるための指導のあり方

#### 1 レポート発表

- (1) 裁判員裁判の意義について考える場面で、実際の事例から模擬裁判を行い、それぞれの立場から考察・判断する活動を通して、司法への理解・関心を高めようとした実践。(上松中)
- (2) 日本の地形や気候の特色を理解し、自然環境と人々の生活とのかかわりを、「恩恵」と「災害」の二つの側面から捉え、防災意識を高めようとした実践。(高森中)
- (3) 国会の役割や国会議員の仕事について学ぶ上で、導入資料の工夫によって、生徒が意欲的に調べ、まとめていくように構想した実践。(信明中)

#### 2 協議

- (1) 安楽死・尊厳死の学習が結びつく事例を基に模擬裁判を行うことで、生徒が既習事項をリンクさせることができた。役割を演じる生徒には配慮が必要である。
- (2) 日本の気候に注目する際、マクロとミクロどちらの視点で捉えるかによって、資料の読み取り方が異なる。
- (3) 生徒も授業に取り組みながらテストを意識する。知識・理解だけでなく、問答形式で考えさせたり調べさせたりする場面を授業に取り入れると効果があるのではないかと。

#### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 模擬裁判のねらいは、司法への関心を高め、理解を深めることである。最後にふり返りの時間を確保し、なぜ裁判員制度を導入したのかに立ち返って考えてほしい。
- (2) 資料を読み取る際、どの生徒も読み取りの力がつくような手だてを考えてほしい。授業の中で、資料を基に思考・判断の場面をつくり、テストにも反映させることで力を伸ばしたい。

### 討議3 多面的・多角的に考察するための授業のあり方

#### 1 レポート発表

- (1) スウェーデンの女性の年齢別労働人口に着目し、日本のデータと比較することで、男女平等のあり方について考察を深めていく実践。(川中島中)
- (2) プロポーザルシートを基に、調査した国々の将来像や課題の解決策をさまざまな立場や条件から解釈し、よりよく発展していくための提言を客観的に説明した実践。(附属長野中)

#### 2 協議

- (1) あらかじめクラスでアンケートをとり、資料集のデータと比較することで、より身近なものとしてとらえることができるのではないかと。多様な意見に触れ、最後にもう一度「男女平等」に立ち返って考える時間を確保したい。
- (2) 各国の調査内容をまとめたシートがわかりやすい。先進工業国と発展途上国で意見が食い違うこともある。日本への提言について、その国の立場から主張できているか見極める必要がある。

#### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 生徒がもっている社会的事象への意識、理解を揺さぶる資料の比較によって問いを設定した事例。問いを設定するまでの布石が丁寧に行われている点を学びたい。
- (2) シートの数がやや多くなっているが、調査を行い、わかった事実をまとめ、発表するという一連の流れが確立されている。思考力・判断力・表現力をはぐくむことができる単元展開と



(社会 8)

して参考にしたい。

#### 討議 4 地理的分野において、生徒の意欲的な学びにつながる単元展開や構想のあり方

##### 1 レポート発表

- (1) ヨーロッパの国々が、EU として一つにまとまることよさを、資料を基に多面的・多角的に考察させた実践。(筑摩野中)
- (2) 中国・四国地方の特色を、本州四国連絡橋などの交通網の発達の面からとらえ、他地域との結びつきを中核に考察しようとした実践。(広陵中)
- (3) 世界各地の人々の生活の特色を、服装に着目し、多様性と共通性をとらえさせようとした実践。(附属松本中)

##### 2 協議

- (1) ヨーロッパ州の地域的特色をとらえるために、「EU」をどの視点から扱うか、資料を吟味して構想を立てるとよい。何を学ばせたいのか、教師が具体的なねらいをもって臨みたい。
- (2) 中国・四国地方を、「他地域との結びつき」に焦点を当てて考察するのであれば、教科書の内容に沿った展開ではなく、扱う資料の価値に着目して展開を考えていくことが重要である。
- (3) 世界各地の人々の生活の様子を、身近な生活の中から見出せる流れになっていて、それぞれの特色をとらえやすい。

##### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 世界の諸地域の学習は、主題を設けて地域的特色をとらえさせる流れになっているので、資料を吟味して、学習問題を設定してほしい。
- (2) グループでの追究は、なぜその時間が必要なのか、意図が明確になっていることが重要である。
- (3) 衣食住の特色や生活と宗教とのかかわりなどに着目して、世界各地の人々の生活の様子を考察するのが、「世界各地の人々の生活と環境」の単元。「世界の諸地域」は、各州の地域的特色を理解する単元。それぞれのねらいをふまえて単元を構想したい。

(文責者 広陵中学校 下平健吾)

#### 【第3分科会】

#### 討議 1 友とのかかわり合いをとおして、見方、考え方を深めていく指導のあり方

##### 1 レポート発表

- (1) 関東地方の人口や都市村落を中核とした授業において、グループ編成に工夫を加えることで、個の見方や考え方を広げた実践。(塩田中)
- (2) 生徒の話し合いを促す発問を工夫することで、公正と効率に基づいて、根拠を明確にした話し合いが行われた実践。(上田第六中)
- (3) 各班を政党と見立てて、模擬選挙を行うことで、学習問題についてクラスで共有しながら学ぶことができた実践。(女鳥羽中)

##### 2 協議

- (1) グループ学習を行うことで、視点が1つにならずに関連づけて考えることができる意味合いがある。個別では学力的に学習が進められない生徒への支援としてグループ学習を行う意味もあるのではないか。
- (2) 個別では学力的に学習が進められない生徒への支援としてグループ学習を行う意味もあるのではないか。

## (社会 9)

### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 異なったグループになったとき、論点を明らかにしてから、グループ追究に入っていけばより活発なグループ追究になったのではないか。
- (2) グループ学習の在り方を工夫して、根拠を厚くしていく追究を通して中核的な事象の理解に至っていた。
- (3) グループ学習をとおして合意に至る過程に向かっていくための、公正と効率をその後の公民学習でも生かしていける授業である。

## 討議2 多面的・多角的に考察するための授業のあり方①

### 1 レポート発表

- (1) 冷帯の地域の人々の暮らしを、衣食住の観点に分けて考えていくことで、様々な視点から考えていくことができた実践。(浅間中)
- (2) 茅野市の温泉施設のあり方を題材として地方自治について考えていくことで、立場の違う人の視点から自分にとって身近な事柄について学びを深めていくことができた実践。(茅野北部中)

### 2 協議

- (1) 「世界各地の人々の生活と環境」の単元は後の単元につながっていく学習であるので、雨温図の読み取りや資料の読み取りを重点的に行い、最後にまとめをして相対化できるようにすることが大切ではないか。
- (2) 中心になる問いをしっかりと立てて、調べていくことが必要である。子供が自分の追究を進めて、最後に共有できるような構成にすればいいのではないか。
- (3) 身近なものの教材化は具体的なイメージが可能であるので、学習しやすいのではないか。生徒に新しい視点を与えるために、外部の人の話を聞くことも有効的である。

### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 単元を貫く問いをしっかりと立てて、まとめて調べていくことで多面的・多角的に考えることができるのではないか。
- (2) 「何故」につながる問いを持たせることが、議論の活発化には必要なのではないか。

## 討議3 多面的・多角的に考察するための授業のあり方②

### 1 レポート発表

- (1) 構造図による授業と単元展開をおこなった実践。(塩尻西部中)
- (2) プロデュースシート、プロポーザルシートを使い、事実を幅広く積み上げることで、将来の日本と外国のあり方を提案していった実践。(附属長野中)

### 2 協議

- (1) 中核にあった考察、そのための資料提示の仕方を考えて最後にしっかりと焦点化をしていくことが大切ではないか。
- (2) 単元を貫く問いの設定の前に、ギャップ、ずれから問いを引き出すことを大切するべきではないか。

### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 構造図を使うことで、単元を貫く問いに視点がどのように関わっているのか捉えやすい。問いに関わる要素だけ捉え焦点化が可能。
- (2) プロデュースシート、プロポーザルシートを使うことで、何が共通の基盤なのかしっかりと位置づいている。

#### 討議4 社会的事象を多面的・多角的に捉えるための単元展開のあり方

##### 1 レポート発表

- (1) 中国は経済大国なのに日本に稼ぎに来ている矛盾を題材にし、生徒が外部から調べてきたものを根拠に語り合うことができた実践。(宮田中)
- (2) 生徒の主体的な追究を促す課題を追究した実践。(駒ヶ根東中)
- (3) 自分の暮らしと世界とを結びつけて学習をスタートした実践。(附属松本中)

##### 2 協議

- (1) 多様性があるのでアジア州は難しい。中国に絞って学びを進めていかなければいけない部分はあるが、アジア州の特色をしっかりと捉えるということは大切にしていけるべきではないか。
- (2) 単元の終末にどのような姿になるのか、どのような力をつけたいのかを大切に、その上で身近な教材を提示していきたい。

##### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 対立軸のある学習問題の設定は意欲的な学習につながる。
- (2) 何について話し合っているのか、考えているのか、観点を明確にして共有化することが大切である。

#### 午後の演習について

単元構造図を作成しながら、「日本の諸地域」で何を中核としながら学習するかを考え合った。指導者の先生からは、各校の教科会でそれぞれの地域的特色を明確にした上で、独自の教材を作るようにすること、また、中核となる地理的事象に有機的に関連付けること、学習形態としてグループ学習を行う場合は、行う理由を明確にすることなどをご指導していただいた。

(文責者 穂高東中学校 中村大樹)

#### V 本年度の反省と来年度の方向

##### ◎本年度の反省

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"><li>・多面的・多角的な視点はとても大切であるし、自分の生活に身近に、自分ごととしてとらえることも大切であると思う。</li><li>・社会科である以上、永遠に追い求めるテーマである。</li><li>・多面的・多角的について、私の中であいまいになりつつあります。これを資料ととらえるのか、話し合いととらえるのか、どちらなのか。</li></ul>
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"><li>・本年度の研究は、多面的・多角的に考察する手だてに重きをおいて、研究することができた。</li><li>・研究の方向や経過について、どう残して次につなげる、見通しをもつかが大切。</li><li>・歴史的分野について、自分で調べたいことを思うように単元を設定し、視覚的情報を共有しながら授業を進めた。成果として、単元設定の仕方や授業展開を学ぶことができた。</li></ul>
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけさせたい視点を具体化して、そのための方策を考えていきたい。</li><li>・テーマが変わったことを伝えてほしい。</li><li>・研究テーマは必要なのか検討してもよい。</li></ul>
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"><li>・特に差し支えはなかった。</li><li>・映像や実物があるとわかりやすい。</li></ul>

(社会 11)

○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"><li>・メールを使用した文書送付は良かった。</li><li>・互換は少々めんどろですが、メールにして頂き、ありがたかったです。</li><li>・メールを通して滞りなく委員長とも連絡が取れ、丁寧に対応だった。</li><li>・メールでいただくとすぐにわかってありがたい。</li><li>・ホームページの掲載が迅速丁寧で知りたい情報をすぐに知ることができる。</li></ul>
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"><li>・なかなかレポートを吟味してから研究発表を聞く、という時間をとれない。参加者にレポート提出されている先生方のレポートをメール送信するのはどうか。</li></ul>

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"><li>・この方向で良い。</li><li>・社会的事象に対する関心・意欲・態度を向上していく社会科学習の指導はどうあるべきか。</li><li>・各校における研究授業とレポート作成。関心・意欲・態度をどのように評価するか。向上のための実践。</li><li>・テストで点をとらせるためにとまって授業をしています。なので、こういうことをいれてもらいたい。</li></ul>
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"><li>・どこか（考察の質、表現の仕方など）にフォーカスしていけたらよい。</li></ul>
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・一貫した単元展開をしたい。</li><li>・各単元を単発ではなく、通して学習できるようにしていきたい。</li><li>・研究の方向に沿って、持ち寄れたらよい。</li></ul>
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"><li>・サブテーマに合わせて、追っていくものが見えたらよい。</li><li>・発表時間が6分ということ事前に教えていただきたかった。</li><li>・時間が少しくつかったのではないかと思います。</li><li>・演習も予定しているが、せっかく各校から先生が貴重な実践をもってきているので、それで十分。</li><li>・レポートを扱える時間をできる限り確実に確保したい。</li><li>・レポートを必ず持参より厳選して学び合いたい。</li></ul>

VI あとがき

11月20日（金）、県下各地から38名の先生方にお集まりいただき、本年度の研究協議が行われました。この研究協議から、明日の実践に役立つ多大な成果をあげることができました。終始、温かく、また的確なご指導、ご助言をいただき、演習により教材研究の楽しさを学ばせてくださいました指導主事の柳澤正寿先生、喜多篤史先生、牧野孝裕先生に心から御礼申し上げます。また司会の先生方には、綿密な計画のもとに研究会を盛り上げ、討議を深めていただきました。記録の先生方には、当日の記録と本集録の原稿をまとめていただきました。世話係の先生方には、準備から当日の細部にまで気を配っていただき、円滑な運営に陰の力としてご尽力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。さらに参会の先生方には、レポートを持ち寄り、貴重な実践を基にしながら、熱心にご協議くださり、この会を盛り上げていただきました。ここに、ご参会のすべての先生方に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

委員長 簾田 典彦  
副委員長 平塚 広司